

KTK

NO.112

後援会費郵便替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



～ Bバンドのご紹介 ～

音楽が好きで、楽しい事が好きなBグループの利用者さん。昨年のクリスマスをきっかけに“Bバンド”を結成しました。ピアノの音楽に合わせてみんなで太鼓をたたいたり、ハンドベルを鳴らしたり…。

楽器を見るなり“これやってみたい!”と手を伸ばす人もいれば、初めは周りの様子を見て、だんだん“私も…”と興味を持つ人など、色々な姿を見せてくれる利用者さんたちです。興味がなさそうに見えても、ここぞという時に「ドン!」と太鼓を叩き“見てた?”と得意気な表情にほっこりする場面もあります。

続けていくにつれ、自分の得意な物を見つけたり、次々色々なものを試したり、みんな思い思いに楽しんでいます。(坂本)

わたしの気持ちを聞いてほしい 侑子さんのおもい

侑子さんは35歳。3歳上のお兄さん4歳下の弟さんの3人きょうだいです。ケアホーム「いろどり」で暮らし「あらぐさ」に通っています。あらぐさでは、花壇の水やりや、大阪保育福祉専門学校で掃除をしています。靴下の藍染めの下準備など水に触れることが好きなのでとても楽しんで仕事をしています。

おいたち

侑子さんの出産前、家族はお父さんの仕事の都合でインドネシアに住んでいました。お母さんは妊娠8か月までつわりがきつく大変でした。

9月、お父さんを残して日本に帰国し、11月に侑子さんが生まれました。祖父に名前を付けて欲しいと頼みましたが「子どもの名前は自分たちで付けなさい。」と言われ、優しく綺麗な女優さんのイメージで『侑子』（ゆうこ）と命名しました。

侑子さんは、産声もなく仮死状態で生まれたので保育器に入れられ、集中治療室で治療を受けました。舌の動きが弱く、授乳には粉ミルクを足していました。なかなか大きくなり、4カ月の検診時、発達の遅れについて指導を受けました。

京大や阪大など専門的な小児科医療や療育を求めて受診をしました。大山崎町では保健師さんの訪問指導も受けました。特にきょうだいのことについても心を配ってくれました。

1歳になり「ポニーの学校」に通園しました。夜泣きはしない手の掛からない子でした。はいはいの期間が長く歩かないので、3歳の時、ヨゼフ整肢園に10日間程母子入園し、ボイタ法の訓練もしました。大山崎保育園にも入園しました。加配の先生についてもらえ、伝い歩きができ、1カ月で歩けるようになりました。保育園の先生たちに大事にしてもらい、卒園してからも出会うととても喜んでくださいます。

向日が丘養護学校に入学して

大山崎小学校への入学を希望していたのですが、条件が整わず向日が丘養護学校に入学しました。

1年生のクラスのみんなは、お散歩大好き！毎日のように手づくりのワゴン車に乗って公園や西山に出かけました。坂遊びやテントを張って絵本『てぶくろ』のお話のやり取り遊びをしました。教室ではピアノに合わせて歌やリズム遊びをたくさんしました。侑子さんは音楽が大好きになり、5年生になると『おもちゃのチャチャチャ』を歌うようになりました。家でも絵本についている小さなピアノを弾いて遊んでいました。

向日が丘入学後、長期休暇には保護者の自主運営である大山崎障がい児学童保育『ともだちの輪』に参加しました。保護者は夏休みなどに、8人位が交代で20人分程の昼食づくりをしました。行政からの補助金がありましたが、運営資金づくりのために物品販売をしました。お母さんたちの気持ちの負担感は大きかったのですが、神戸の南京町に出かけたり、楽しい活動があったり保護者として頑張りました。



寄宿舎生活も体験

中学部、高等部になると寄宿舎に入舎しました。当時は、スクールバスのお祭りや寄宿舎の夏祭りやクリスマス会など楽しい行事がたくさんありました。寄宿舎の先生から「侑ちゃんは、他の人の真似をするんですよ。」と教えてもらい、そんなことができるのだと嬉しかったです。



「あらぐさ」「いろどり」の生活

高等部卒業後、何人かの人たちと一緒にあらぐさに進路が決まりました。あらぐさに通うようになり、自分の気持ちをしっかりと伝えられるようになりました。音楽が好きな侑子さんは、Bバンドをととても楽しんでます。

いろどりには開設時に入所しました。入所1カ月が過ぎた頃から様子がおかしくなり、荒れた行動が見られるようになりました。家庭からあらぐさに通所するという安定した日々の生活が変化し、気持ちの支えがなくなりとても不安定になったようでした。あらぐさで落ち着いて生活できていたので安心していたのですが、家庭での生活の中には侑子さんにとって、とても大事にしていることがあったのだと思いました。



現在の家での様子

今は少しずついろどりの生活にも慣れ安定してきました。少し困っていることは、感情の起伏のようなものがあり、食事を食べたり食べなかったりすることです。1日1食の時もあります。食べない時には口に含んだままの状態であることが多いです。

土、日はガイドヘルプを利用しています。月3回の大山崎町社協と月1回のサポートセンターあらぐさでお世話になっています。桂川のイオン、伊勢丹デパート、高槻の商店街など賑やかな所に出かけていました。今は侑子さんがマスクを嫌がるのでお休み中です。

家族とのこと

8年ほど前に亡くなった祖母は、子ども好きで孫たち皆を可愛がってくれました。70代で亡くなった祖父も育児や家事を助けてくれていました。

土曜日の朝「いろどり」に迎えに行きます。帰宅すると、お父さんは近くの河川敷に散歩に連れて行ってきています。時々、お母さんが交代して大山崎聖天さんの方に行こうとすると「違うよ!」といっています。家で散歩する時には、お母さんの袖を引いて「歌って!」と要求し、『さんぽ』『おもちゃのチャチャチャ』などを歌っています。お父さんの車には侑子さん用のテープが用意してあります。今までドライブをする時にはそのテープを聴いていたのですが、最近になって怒り出しました。お父さんのテープ『中島みゆき』の曲がかかると落ち着いていません。

あらぐさに通うようになって自分の気持ちを主張するようになりました。

今一緒に暮らしている弟さんは、幼い時から小さなピアノと一緒に歌を歌ったり、バス停まで迎えに行ったり、今でも優しく接してくれています。

大山崎生まれの大山崎育ちのお母さんは、最近、階段事故で背筋の圧迫骨折や裏庭の坂道での足指骨折といった怪我が続き、お父さんからは、日々よく気を付けるようにと注意されています。でも、今の楽しみは、学生時代の同窓会の人たちとの再会です。広島や北海道など遠くから京都に来られていた方が多く、とても楽しみにしています。秋にはマキノのメタセコイヤ並木を見に行きたいとも思っています。

(取材:前田・森垣・貞殿)



～ 各グループからの報告 ～



新車で出かけよう（Aグループ）

昨年、あらぐさに新しい送迎車がやってきました。室内空間も広く、利用者さんもゆったりと乗り込むことができます。今までは、車いす2台で乗る時は座席を倒す必要がありました。新車では座席を残したまま乗り込むことができます。主にAグループで使用しています。コロナ禍の影響で、この2年間は外出の機会が減っていますが、買い物などに出かける時には、車を使用しています。車に乗り込む時は、「どこに行くのかな」と想像しながら、体を揺らしたり、嬉しそうな声を出したりする利用者さんもいます。Aグループだけでなく、他グループと合同で車に乗ることができるサイズのため、今後は、合同で乗る機会を増やし、楽しく活動をしていきたいと思います。（森下）



新しいなかまを迎えて

（Bグループ）

新年度になり、新しい環境にワクワクしつつも、ドキドキしている利用者さんたち。新しい利用者さんが来られ、先輩たちは“どんな人かな…”と興味津々で迎えました。

先輩たちは新しい利用者さんと職員とのやり取りを見て、“自分も！”と握手したり、顔をのぞき込んだり。時には“どうしようかな…？”と迷っている姿をみて、“こっちにおいで！”と手を引いてあげる姿も見られ、職員が驚きつつもほっこりすることがありました。

そんなやりとりを通して少しずつお互いの仲を深めている様子を見て、改めて利用者さんたちのことを素敵だな、と感じます。これからいろいろな活動など、楽しいことをみんなで共有し、また新しい姿が見られるのを楽しみにしています。（坂本）





東院公園へお花見

(Cグループ)

4月8日の午後、ワゴン車3台に分乗して春恒例のお花見に出かけています。Cグループではお馴染みの、向日市体育館脇の東院公園です。通りに面した並木の桜も綺麗ですが、公園内の桜も立派な枝ぶりのものばかりです。

好天にも恵まれ、この日の最高気温は26℃、長袖Tシャツでは暑いぐらいで、午前中に買い物に行って冷やしておいたジュースが更に美味しく感じられる陽気でした。利用者の皆さんは、桜を見ながらお菓子とジュースで楽しいひと時を過ごされていました。(松村)

山口愛さんの作品展より

(デイセンター2)

1月18日～3月27日にかけて、「art space co-jin きょうと障害者文化芸術推進機構」企画による、山口愛さんと他事業所利用者さんとの合同作品展が開催されました。「表現と周辺」というテーマで、山口さんが主に現在のあらぐさに通所されてからの作品が展示されました。一つひとつの絵には、山口さんの思いや願いが込められており、印象深い作品ばかりでした。

3月末に、デイセンター2の利用者さんと職員数名で一緒に会場へ出かけました。見学に行った利用者さんは、「すごいなあ」「上手だなあ」と感動されていました。

コロナ禍、デイ2では感染症対策をしながら、今後もアート活動を続けていきたいと思います。(岡田)



新しいオーブンがやってきました！（ワークセンターあらぐさ）

昨年9月に、ワークセンターあらぐさクッキー工房に、新しいオーブンが届きました！

あらぐさのカタログ販売で、沢山のご注文をいただき、早速新しいオーブンが大活躍しました！その後も、京共済やU.I.no coffee など数々のお客様よりご注文をいただき、大忙しのクッキー工房です。メンバーさんも、生地計量や生地作り、成形から袋詰めなど、それぞれ得意な事を活かし、力を合わせて行っています。新しいオーブンの登場で、これまで以上にやる気に満ち溢れ、仕事に励んでいます。（田口）



トイレを新設（ケアホームかざぐるま）

昨年7月に「公益財団法人あすなろ福祉財団」様より助成金をいただき、トイレ増設工事を行いました。これまで4人の利用者さんに1つのトイレで時間によってはトイレの順番待ちをしなければいけない場面もありましたが、このたび2箇所になったことでそれが解消されました。トイレが新しく完成した日は利用者さんも大変喜んでおられました。

また従来からあるトイレも床の張り替えや換気扇を新設し、快適にトイレを使うことが出来るようになりました。現在は、利用者さん各々で2つのトイレをそのときの気分や状況で使い分けておられます。

利用者さんにとっても職員にとってもとてもうれしい増設工事となりました。ありがとうございました。（富森）





あらくさ後援会 加入・募金 ありがとうございました

(2021年11月26日～2022年5月25日 敬称略 順不同)

網谷億子 荒木満 池添素 池田恭子 池田千恵子 池田芳子 井古テル子 五十棲福男 伊地知洋晃
伊地知有華 伊藤憲一 稲葉薫 今井和子 植田進 大槻昭 岡本敦子 荻野和雄 金子美智子 狩野直
禊 鎌田桂子 木村篤哉 木村まき子 鞍貫聡史 後藤真由美 小林美恵子 小松仁美 佐々木和隆 佐
藤敦子 佐藤卓利 清水敏子 専修院福本哲了 鷹野安子 高橋征吾 高橋明美 田中洋子 長誠一郎
長理恵子 築出邦子 株式会社辻工務店代表取締役辻正志 津田恵理子 津田みさ子 豊田信子 西野由
美子 橋爪早苗 長谷川長昭 ばんだ企画 平野元子 廣岡富美子 藤原啓子 別府哲 細野和子 前田
知臣 松田恵美子 松村誠 真殿尊子 三木理枝 水口秋子 道場恵美子 三橋眞子 村上宏 村上すみ
子 村野英介 村山容祥 山川洋子 山本利江 山本弥生 井上吉郎 中川慶子 造酒豊 匿名12名

※ 6月4日(土)、あらくさ後援会総会を開催しました。

総会報告は、別紙付録にてお読みください。

後援会費納入と

2022年度

あらくさ支援募金のおねがい

- ・同封の振込用紙をご利用ください。尚、郵便料金の変更により、払込人様に加算料金がかかる場合があります。
ご負担をおかけしますが、ご理解の程をお願いします。
- ・後援会費、支援募金には「KTK あらくさ通信」紙代が含まれています。
- ・入金と行き違いになりました際にはご容赦ください。

きょうされん 第45次国会請願

署名・募金運動の報告とお礼

きょうされん第45次国会請願署名・募金運動が今年度も全国で行われました。あらくさ福祉会も昨年12月から利用者家族、職員、関係団体等のみなさんから少しずつ集めてきました。

コロナ禍、全国的に協力が得にくい状況ですが、署名が2524筆、募金が103751円集まっています。5月末には集められた署名が国会に届けられました。ご協力、ありがとうございました。(鞍貫)

< 編集後記 >

いつもあらくさ通信をご愛読いただきありがとうございます。今年度、後援会広報部長を務めさせていただく岡田利代子(デイセンター2職員)です。本号より、本誌の内容構成を一部変更致します。それに伴い、従来のコーナーは不定期掲載とさせていただく場合がございます。通信に関するご意見やご質問等がございましたら、ご遠慮なくお聞かせください。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

あらぐさと私



障害福祉センターあらぐさ 職員

田中 皓大 さん

(たなか こうた)



2022年4月からあらぐさ福祉会でお世話になっています。田中皓大と申します。

私が福祉の仕事を目指すようになったきっかけは、大学で友人に誘われてボランティアサークルへ参加した事でした。そこでは、知的障害者の施設で余暇活動を企画・実行する活動をしていて、どうすれば利用者さんが楽しんで参加してもらえるか、創意工夫をしながら活動していました。その活動に参加している内に福祉の仕事に興味を持つようになりしました。その後、短期入所のアルバイトを始めてより福祉業界に関心を持ち、大学卒業後には宇治の障害者通所施設に就職しました。

あらぐさ福祉会と出会ったのは、前職を退職後、就職活動で様々な施設を見学させて頂いている中でした。就職フェアでお話を聞かせて頂いたり、展示されていた作品を見せて頂いて、是非見学したい!と思いました。後日、あらぐさを見学させていただいた時には、利用者さんが自分達の作品を嬉しそうに見せてくれたり、

利用者さんと職員の方がいきいきとした雰囲気、で様々な活動をされている様子が印象に残りました。また、あらぐさ福祉会の理念や方針、歴史を聞く中で、どんなに障害が重い方でも、利用者さん一人一人の障害や人格に合わせた活動や生活作りを目指す、という個人を大事にした取り組みに惹かれ、ここで働いてみたいと思いました。

あらぐさのBグループに所属して、もうすぐ一ヶ月が経ちます。利用者さんと毎日活動をする中で、やったー!と一緒に喜んだり、ニコッと笑ってお話をされる度に、少しずつではありますが、あらぐさの一員として馴染んでいるのかな、と嬉しく思います。

まだまだ不慣れな事も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、毎日の支援を通じて利用者さんから沢山学ばせて頂いたり、先輩職員から支援についてご教授頂きながら、日々精進していきますので、どうぞよろしくお願い致します。



1992年6月5日 第3種郵便物承認 (毎月1回25日発行) 2022年6月22日発行
KTK増刊号通巻第5257号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8144 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町536-1 元待賢小学校1階
京都駅前南車内 発行人 高谷修 頒価50円 (購読料は会費に含まれています)

KTK

あらぐさ通信